

だっこするよ

平成29年5月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

〒115-0053 北区赤羽台 1-4-11-105

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子



五月によせて～ 「個」を大切にする保育とは？

太陽が急に輝きを増し、草燃え、花々が咲き誇り、薰風さわやかな美しい5月がやって来ました。地球上の生命が一斉に色鮮やかに輝きだす大好きな季節です。哺乳類の一員である私たちは太陽の光に魅かれて早く公園へ行きたいと1歳さんも自分で靴をとり履こうとしています。幼児組は、新クラスになりより一層パワフルです。荒川の土手を走り、八幡神社から新幹線を眺め、自然観察公園でおたまじやくしをもらってきて、清水坂公園の滑り台、東西南北地元をたっぷり遊んでいます。そして、室内では、集団のルールを学びながら、身の回りのことを自分で自立練習を頑張っています。

4月、幼児クラスも新3歳さんを2階に迎えました。困っていると教えてあげて自分より小さなお友だちに気遣いができます。そして、1階の乳児クラスでは、大泣きしていた小さなお友だちも時折笑顔が見えるようになりました。泣かれた毎朝は、胸が痛んだことでしょう。一人ひとりが大きな環境の変化、大きな壁を自分自身で乗り越えて前へと成長していく、すごいですね。子どもの力は。子どもの力に甘えず、個々の声を聴き、信頼関係を育みながら、「子ども主体」の保育をして参ります。

15年前、音楽教育家であり、1967年にコダーイ芸術教育研究所を創立された羽仁協子氏（祖母は自由学園創設者）の講演会で心に刻んだ言葉です。15年前大人が保育室や教室の中心で指導する一斉保育、教育がほぼ日本の全ての園で行われていた時代に集団よりも個を尊重する…とても強烈でした。

「教育の現場で子どもたちの不満が多い。一斉保育をやめましょう。子どもの困った顔ばかり目立つようになり、自分の価値が分からなくなっている。大人は、揃うことばかりに目をやる。個人より国家の目的であった戦争のため先ず「集団」として考えるようになった。「個」の幸せから成る「自立した集団」を創ろう。子どもを横並びにして枠にはめ込まないと心配する保育者や保護者が多い。子ども一人一人が本来持っている「力」を知らないからだ。自発性が抑えられれば子どもの価値は無くなる。子どもが自分の人生を切り開く「生きる力」をどう育てるのか？必要な条件や環境を整えて、子どもが自発的に遊ぶ、食べる、寝る、自発性を大切にして欲しいと。子どもというものは集団で育つのではない。幼児期の我がままとは違う。子どもは「自分」を見て欲しいと思っている。「子どもを知ること」「子どもの心」を知らなければならない。子どもの成長とは、万遍なく知識を付けることではなく「自分」で能動的に活動する力を育てて欲しい。子どもの見方を学びなさい。それが保育の質になる。」と厳しい表情でした。生前の羽仁先生に直接お会いできたのは、数回でしたが、奇跡だと思います。子どもが育つと言うことは？自発性を大切にするとは？子どもに携わる全員の大人で考えていかなければならぬテーマだと思います。

平成30年度、保育所保育指針、幼稚園教育要綱、幼保連携型認定こども園教育・保育要綱が同時に改定されます。全ての子どもの育ちを質量共に社会全体で支えて、就学前の保育・幼児教育を日本中のどのこにも格差なく保障していくものです。生きることがワクワクして面白い毎日、虫を探して熱中する、飽きることなく遊ぶ、体験こそ知識への入り口です。そこから生きた学びへつなげていきたいと思います。

さあ、ゴールデンウィーク、ご家族の時間をゆっくり楽しんでくださいね。

(写真はおひさま組 荒川の土手で ホップ ステップ ジャンプ！！)